

令和6年度学校評価（～自己評価～）

1. 目指す学校像

本校は、沖縄県に認可を受け、平成29年4月に那覇市樋川に開校した通信制高等学校です。興味関心や学びのペースも異なる仲間たちが集い、それぞれの歩幅で成長できる環境を大切にしています。生徒一人ひとりに合わせた個別指導を最大の特徴とする通信制高校の特色を生かし、本校は下記のような生徒を育成します。

- 通信制高校の特色を最大限に生かした教育を通して、自己の生き方を考え、社会に貢献できる生徒を育成します
- 生徒一人ひとりに応じた教育を通し、学びに向かう力、豊かな人間性や社会性を身に付け、他者と協力しながらより良い社会の創造に寄与できる生徒を育成します

2. 重点目標

- 個別指導を通して、基礎学力の定着および学習意欲の向上を図る
- さまざまな特別活動・学校行事を通じて、協調性や豊かな人間性を育む
- 生徒一人ひとりの能力・適性・興味関心に応じた進路実現をサポートする

3. 具体的目標・方策および評価・課題

具体的目標	具体的方策	評価	課題・次年度に向けた取り組み
学習習慣を身につけ、学力向上を図る	スクーリングにおいて、生徒一人ひとりに合わせた学習指導を実践する	A	・ 生徒一人ひとりに合わせた学習指導は概ね達成できたものの、レポート課題以前の基礎知識が不足していることもあり、学び直し講座と連動した取り組みを今後実践したい。 ・ 学習状況を把握するアプリ（スマスク）を通じて、生徒・保護者が学習状況を確認でき、生徒が計画的に学ぶ姿勢が身についたと考えられる。
	学習状況を生徒・保護者が確認できるようにする	A	
	学び直し講座を実施し、小・中学校の学び直し学習ができるようにする	A	
基本的な生活習慣を確立する	学校生活の心得を遵守させ、学校や社会のルールを守るよう生徒指導を行う	B	・ 髪の毛の色（地毛）やメイク（日焼け止め）に関して識別の難しさが教職員間で挙げられた。1件1件情報共有を図り、改善していく。 ・ 定期的な面談を通じて、生徒の自宅での様子や学校外での活動等を把握でき、今後の指導に役立てることができた。
	いじめ・薬物等の注意喚起を行う	A	
	定期的な面談（二者面談・三者面談）や個別相談を通じて、家庭での様子を把握する	A	

実習科目や特別活動、 学校行事を通じて、協 調性、社会性を育む	実習科目や特別活動等を通じ て、友人作りをサポートする	B	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師による特別活動も多く、活動自体の面白さはあったものの、友達づくりへの満足度は少なかったように思う。 ・グループ活動では、積極的に友達と意見交換し、スクーリング外でも主体的に集まり、議論する姿が見られた。
	総合的な探究の時間等でのグ ループ活動を通じて、他者と 協力しながら課題解決を図る	A	
生徒一人ひとりの進路 実現をサポートする	進路実現に向けて、進学・就 職説明会や面接、小論文など の進学・就職対策を実施する	A	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの進学指導に加え、就職対策講座を通年通して実施し、自身の適性に合う、納得のいく就職先決定ができたように思われる。 ・3年間を通じた特進コースでの学びの成果として、医学部現役合格者が出るなど、充実した大学受験対策ができた。
	特進コースを設置し、大学受 験に向けた対策を行う	A	
生徒が安心して学べる 環境を維持する	清掃や定期的な点検・訓練 (消防訓練など)を実施する	A	<ul style="list-style-type: none"> ・消防訓練や防犯訓練を通して、非常事態を想定し、生徒を安全に避難できるよう教職員一人一人の意識が上がったように思われる。 ・普通教室の机入れ替え、自習室の整備を行い、生徒がより学習に集中できる環境を整えることができた。
	学校内外の危機管理を徹底 し、不審者を想定した防犯訓 練を実施する	A	
	学校備品(机、PCなど)を整 備する	A	
生徒・保護者との連携 を密に図る	学校からお知らせをメールで 配信し、生徒・保護者がいつ でも/どこでも確認できるよう にする	A	<ul style="list-style-type: none"> ・メールでの情報連絡も浸透し、生徒・保護者が学校からの情報を確実に取得できるようになった。
	学習が滞っている生徒には、 保護者へ電話連絡する	A	

評価：A（ほぼ達成8割）、B（概ね達成6割）、C（改善の余地あり4割）、D（不十分4割未満）